令和元年度第２回安中市DMO推進委員会　議事概要

開催日：令和２年１月１０日　１３：３０～１５：３０

場　所：安中市役所　松井田庁舎　２階　大会議室

挨拶：

委員長（代理　粟野副市長）

安中市観光機構が当市のDMO事業を推進しております。廃線ウォークが好調を保ち、磯部温泉には恋人の聖地が新たに誕生しました。DMO推進委員会では、皆様の忌憚のご意見を頂戴できればと思っています。

清水顧問

全国で３００近いDMOがある中で、今までの観光協会と変わりがないといった自治体も多くあります。安中市では、来年度が交付金最終年度になる。またDCもあり、安中市を周知する絶好の機会であると思う。

議題：

大竹課長

令和元年度内閣府のKPI中間報告について、

観光客数については、下方修正を行い、令和２年度までに５％増を目標値とした。

〇観光客数　約９０万人程度

〇DMO会員数　９１件

〇独自の雇用者数　３名

令和元年度観光庁のKPI中間報告について、

統計調査中であるため、第３回で報告する予定である。

〇滞在交流型プログラム　残り冬号・春号で目標値を達成する予定である。

〇メディア掲載　４６記事

議題：

依田事業部長

実施事業について説明を行う。別紙委員会資料参考。

質疑応答：

櫻井委員

ネットからの受注が多いとのことであるが、紙とネットで情報発信をしていると思うが、今後はどのような割合で予算を振り分けていくのか。

A　依田事業部長

予算としては、冊子が４００万円、ネットが１００万円の予算を取っている。あんとりっぷのプログラムは市民の皆様の協力が必要であると考えている。そのため、冊子のあんとりっぷは予算を多く取り各家庭に配布して、周知に努めている状況である。

三宅委員

廃線ウォークの参加者のうち外国人の参加者もいるのか。

A　依田事業部長

台湾・香港・中国・オーストラリアの実績はある。２０人近く参加している。市内在住の方から、県外の人までいる。特に台湾は鉄道文化があるため、興味のある人が多くいる。営業は台湾を中心に行っていきたい。

総評：

清水顧問

KPIのポイントは、独自の雇用人数である。地方創生は最終的には自立を目指すものである。DMOとしての財源を確保して自立が目的である。

DMOは、観光客に心地よくお金を落としてもらい、地域全体が元気になることが求められる。そのためには宿泊してもらう必要がある。宿泊が伸びれば消費額も多くなる仕組みになっている。

滞在交流型プログラム数を増やすことは、オール安中の証である。もっと増やしてほしい。

メディアの掲載回数が他のDMOに比べて非常に多い。事業部長を中心に良く活動していると思う。

お客様にお金を落としてもらうためには、

1. 民間がオール安中で結集していく。
2. 行政が然るべき支援をする

まだまだ予知があり、安中市は観光地として成功する可能性がある。

特に廃線ウォークは滞在プログラムとして成功している。今後はインバウンドがもっと増えていくと思う。お金が落ちるためには、もっと体験ができる仕組みを作ってほしい。

最近のインバウンドはサイクリングが人気である。安中市でも中山道などを活用し、インバウンド誘客ができるのではないかと思う。

行政の支援とは、

・施設を磨く（改修、保存）

・道路や標識の整備（インバウンド対応）

・お金を落とす施設への投資（運営は委託）

・外国へのプロモーション（トップセールス）

来年度は地方創生推進交付金が最終年度になるので、益々頑張っていただきたい。

挨拶：

武井副委員長

全て清水顧問の言う通りであると思う。４年目が終わりかけであり、改めてDMOの事業についても振り返りを行う時期なのではないか。そして、変えるところは変えていく必要があると思う。

安中市観光機構は情報発信を心掛け、市民の皆様の理解を得ることが必要だと思う。今こそ、行政には力を発揮してもらいたい。群馬県では今まで観光推進の事業には注力していなかったように思える。今後は、行政と一体化し、お客様の満足度の向上に努めていきたい。１つ１つの積み重ねが、大きな成果に繋がる。１回ここで過去を振り返り、反省を今後の事業に反映させる。皆様にも問題の提起をいただき、より良い安中市にしていければと思う。